

順位表 4/7現在  
基本 8 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

注：\*印は消化試合が数字分少ない

1*1	大宮	17p	+9	13	4	A●
2	岐阜	17p	+8	16	8	---
3	沼津	16p	+9	16	7	
4	今治	14p	+3	10	7	A○
5	FC大阪	13p	+6	10	4	A△
6	相模原	13p	+2	7	5	A△
1*7	琉球	12p	+3	11	8	
8	長野	11p	+2	13	11	
9	金沢	10p	-2	15	17	
10	鳥取	10p	-2	7	9	
11	富山	10p	-2	5	7	
12	YS横浜	9p	-2	7	9	
13	松本	9p	-5	8	13	A○
14	奈良	7p	-3	9	12	
1*15	福島	7p	-4	5	9	HO
1*16	北九州	6p	-2	3	5	
1*17	八戸	6p	-3	5	8	
18	讃岐	5p	-4	8	12	HO
19	宮崎	5p	-6	7	13	
1*20	岩手	5p	-7	6	13	HO

次回HomeGame

第10節 vs. テゲバジャーロ宮崎

4/14 (日) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休：月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日：日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋  
通り

JR 岐阜駅  
北口より  
北西方面へ  
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ  
イン

JR

岐阜駅

通算対戦成績	全21試合（J2:13試合、J3:8試合）注※YKK, アローズ北陸との対戦は除く。 岐阜8勝 / 富山7勝 / 6分け Jリーグ岐阜ホーム戦：4勝4分2敗		
直近の対戦結果	2023/10/29 富山 1-1 岐阜 得点者：村田透馬 J3-33節@富山		
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	富山	
	2024/04/06 J3-8節@ギオンズ 相模原 1-1 岐阜	2024/04/06 J3-8節@富山 富山 1-0 北九州	
	2024/03/31 J3-7節@サンアル 松本 1-2 岐阜	2024/03/30 J3-7節@タビスタ 琉球 3-1 富山	
	2024/03/24 J3-6節@長良川 岐阜 3-1 岩手	2024/03/24 J3-6節@とうスタ 福島 0-0 富山	

● J3 リーグ 2024 年シーズンの開幕 5 試合を 3 勝 1 分 1 敗と、まずまずの滑り出しを見せた F C 岐阜。3/24 (日) 第 6 節・ホーム岩手戦では、前半 6 分に #11 藤岡浩介のゴールで先制して前半を折り返す。後半 13 分には #8 荒木大吾の突破で誘発された P K を、再び #11 藤岡が決めて 2 点目。そして後半 24 分にも #11 藤岡が P A 外から強烈なミドルを決めてハットトリックを達成。その後にオウンゴールを献上してしまっただが、3-1 と快勝し、リーグ戦ホーム開幕 3 連勝を達成した。続く 3/31 (日) 第 7 節・アウェイ松本戦、この試合も岐阜が前半 3 分に先制点を奪うが、その後は松本の猛攻に晒される時間帯が長く続く。これを耐え忍んで試合終了かと思われたが、後半 A T に #24 粟飯原尚平が値千金の決勝点を挙げ、2-1 の劇的勝利。3 連勝を達成して暫定首位に。そして 4/6 (土) 第 8 節・アウェイ相模原戦は、後半 8 分に C K のこぼれ球を #11 藤岡浩介が押し込んで先制するが、相模原に追いつかれてしまう。その後も一進一退の攻防が続くが、決勝点は生まれずに 1-1 の引き分け。岐阜の連勝は 3 でストップした。

この 3 試合の結果、F C 岐阜の順位は暫定 5 位から暫定 2 位へ。(1 試合未消化にも関わらず) 暫定首位にいる大宮とは同じ勝点で、その未消化 1 試合 (vs4/21 (日) 福島戦) を大宮が勝利したとしても、勝点差 3 で 2 位となる位置だ。J3 優勝ラインの“1 試合平均勝点 2”の水準も保てており、現在は順調ともいえるが、しかし昨季は 4 月から 4 連敗を喫して順位を大きく下げてしまい、それが最終節まで影響したという苦い経験を忘れてはならない。連勝も止まったので、気持ちを新たに油断することなく、常に目の前の 1 試合を最後まで全力で戦い、しっかりと結果を出し続けることが何よりも重要だ。

さて、今節は 3 連戦の 2 試合目、その対戦相手はカタールレ富山だ。岐阜が J 参入を決めた 2007 年末に設立され、2009 年からは J2 に参入して戦ったが、2015 年からは J3 となり、今季で 10 シーズン目を迎えるチームだ。昨季は最終節まで J2 昇格を争い、鹿児島と同じ勝点 62 だったものの得失点差で 3 位に終わり、涙を吞んだ。今季も、かつて富山で J2 昇格を経験して富山で指導歴を重ねてきた小田切道治監督が 3 年目の指揮を執る。しかし今季は得点力不足に悩まされ、開幕 8 試合で 2 勝 4 分 2 敗・5 得点 7 失点で暫定 11 位。金沢との北陸ダービーを制した以外は未勝利だったが、前節に北九州との接戦を制して 2 勝目を挙げ、チームは復調してきていると見るべきだろう。油断できない相手だ。

富山で最も警戒すべき選手には、大型 F W の #9 碓井聖生を挙げる。大卒ルーキーながら現在 2 得点。そのポストプレーが攻撃の起点となるため、パスを出させない前線のプレスも重要になるだろう。また、富山の #11 松本孝平と岐阜の #29 野澤陸は、ともに甲府からのレンタル組、そのマッチアップにも注目したい。

J3 での富山との対戦成績は、4 勝 2 分 2 敗・10 得点 7 失点。ホーム戦だと 2 勝 1 分 1 敗・4 得点 3 失点だ。昨季の 5/28 (日) 第 11 節ホーム戦では、試合序盤の先制点を守り切って 1-0。直近対戦の 10/29 (日) 第 33 節アウェイ戦では、先制されるも後半 A T に追いついて 1-1。今節も、序盤から攻勢を掛けて先制点を奪い、優位のまま試合をすすめて勝利する展開を、このホーム・長良川で僕らに見せて欲しい。

中 3 日での連戦で今節の試合、そして次節は再び中 3 日での 3 連戦。この過密日程を、ホーム・長良川の 2 連戦で迎えることができるのは幸いだ。平日ナイターだが、今節も僕ら岐阜サポーターの声援で選手たちの後押しをしよう。最後までひたむきに走り続ける選手たちをの背中を押し続ける、拍手や声援を送ろう。タオマフやゲーフラなどでスタジアムを緑に染めて、選手たちを鼓舞しよう。そして今節も、試合終了の笛が鳴った後に選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” をホーム・長良川スタジアムに響かせよう。

(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

## 【第6節】岐阜 3-1 岩手

●今節はここまで未勝利の岩手が相手。それが却ってむつかしいゲームになるのではと予想したのだが、杞憂に終わった(笑)。

上野輝人、田口裕也は本当に人が変わったようなプレーぶり。上野は村田透馬ほどのスピードはないにせよ積極的にガンガン仕掛けていくのは見ていて好感が持てた。田口はフォア・ザ・チームのプレーが増えてきたね。藤岡浩介の1点目、岩手の宮市剛のトラップミスもあったけれど、藤岡の動き見てヒールで繋いだのはお見事。小川真輝の左SBもムン・インジュと遜色ないプレーぶりだったな、さすが本職。FK、CKのキックの精度も高かったね。小川左SBのムンの2列目も見てみたい感じ。甲府から加入したばかりの野澤陸。プレー見るのは初めてだけど、派手さはないけどCBでの安定っぷりよ。甲斐健太郎ともいいコンビ組めてる感じ。

そして今日は何と言っても青木拓矢の存在感。ひたすら狩るのと、良いバランスとしての動き、前へ良いボールの配給と。まだプレータイム長くはないけど、これでもう少し長くなったらどうなるだろうかと(笑)。彼の加入で庄司悦大の負担がグッと減ったのは間違いないところ。

ハットトリック決めた藤岡に関してはどうこう言う必要もあるまい(笑)。貪欲にゴールを狙う姿勢を見せてくれるのはイイね。栗飯原尚平はフィジカル強くなったよなあ。熊本行って大木塾で確実にサッカーが上手くなった。今のこのメンバーに、イ・ヨンジェが加わるんだもんなあ。

深津康太も都倉賢も深堀隼平も水野晃樹も中村充孝もいなかった今日の岩手。西大伍と言えば右SBのイメージなのだが、チーム事情から今日みたいな位置でプレーしてるのかな。

ホーム3連勝、やっぱり気分がいいもの。次節は難敵松本、簡単にはいかないゲームにはなるだろうけど敵地アルウィンで黙らせてきてくれ。

最後に、甲斐健太郎選手、Jリーグ200試合出場おめでとうございます。(岐阜の誇り)

●開幕4連勝していた今治をアウェイで倒した次の試合。定石だとスタメンは変えないんだけど、上野監督は#15上野輝人を起用。今季は右MFを試行錯誤、つまりは右SB#5石田峻真の“相方”探しをしているみたいだ。ただし、岩手は昨季に#5石田が在籍していたチーム、しっかり対策してくるはず。ならばと左利きのスピード型#15上野を左に、右利きの万能型#8荒木大吾を右に配置。上野監督は“逆足好き”だと僕は思ってたので少し意外だったけど、結果的にこれが奏功したと思う。前半6分、PA中央でボールを拾った#17田口裕也がオシャレなヒールパスというか“トス”、それを#11藤岡浩介が決めて先制点！#17田口のチームプレーも素晴らしかった。さあこの試合も早い時間帯に追加点……とは、今回はならない。何度か惜しいシーンはあったしピンチも迎えたけれど、そのまま前半終了。後半もややオープンな展開で、スルーパスで右サイドを駆け上がった#8荒木が最終ラインを突破し、PKを獲得。これを後半13分に#11藤岡がしっかり決めて2点目！ゆりかごダンスの中央で祝福されてたのは#40川上竜、公式リリースないけど2人目のお子さんが産まれたみたいですね(おめでとうございませう！)。そして後半24分には、交替出場の#16西谷亮がインターセプトすると素早く縦にボールを送り、これを受けた#11藤岡がすぐにPA外から右足を振り抜いてハットトリック達成！これで岐阜でのハットは2回目かな？もっと見たいですよよろしくお願いします(笑)。こうなると、岐阜としては無失点で終わりたい……んだけど、どうも4点目を狙いにいったようで。#8荒木大吾のシュートは、位置もコースも時間帯も2/24福島戦の再来！と思ったけど外れてしまった。んで問題の失点シーン。どうもCKで選手たちがゴール前に入りすぎてるなあ……と思ってたら、GKからカウンターが発動して失点。まるで2018年W杯の日本vsベルギー戦じゃなか……(溜息)。まあミスが

3つ(かな?)も重なれば、そりゃ失点しますよね。あと、選手たちが主審に猛抗議してたのは、たぶん「PA内のハンド」ならば、普通は「オウンゴール」と「イエローカード」のどちらかなのが両方もらったからかな？ただし、その後はバタバタせず、きっちり試合を締めて3-1。連勝そしてリーグ戦ホーム開幕3連勝！いやあ、ホーム開幕3連勝とあって、「Jで初めてじゃないかしら？やっぱりホームで勝つのは素晴らしい。1失点が無ければ得失点差で暫定首位タイになれたので、実にもったいなかったけれど、勝った上で反省ができることはポジティブに受け止めたいです。でも、まだまだこれから。もっともっと、勝利の喜びを全員で分かち合いたい。(ささたく)

●試合の感想の前に一言。試合前日に衝撃のご報告をいただいたんで、是が非でも行かなきゃならないと思った、ナイス改めガッツこと、西村知穂嬢のFM-GIFUのクラブ応援番組卒業挨拶。ピッチ内での選手紹介で「アタシのカタギリアツシーツ！」と叫んで、クラブに叱られたのはJFLの時。あれから17年か。『Road to Dream』は道、未だ半ば……にも至ってないのかもしれない。でも、彼女も言及してたように、当時と比べたら隔世の感。ハーフタイムのピッチ内挨拶後に番組初回ゲストの野田恭平が花束贈呈。ああ、ウチにも歴史があるんだな、としみじみ。

で、試合。「決め役にキメ顔させる。」ってスゴいな、と。語弊があるかもしれないし、端的に言い表せてるとも思えない。でも、フィニッシャーにきちんとフィニッシュさせるだけで、みんなが幸せになれるんだよなあ、と思ったね。こんなにイキイキしてるコースケを見るにつけ、昨季まではホント、いろいろムリさせてたんだな、とつくづく(苦笑)。「○○も出来る。」ってのとは違うんだよなと。個人が自分の技量を発揮してのゴールは今までも見て来たけど、今は、その、個人の技量を意図して繋げていってるよね。組織的って言うのかな？少なくとも、昨季までよりは、ソレを感じるよ。

それから、違いを感じると言えば、だよ？A代表としてナショナル・マッチに出場するために留守をして、戻ってきたら出番なくなりそう……とか、どこのUCL常連クラブだよ(笑)。まさか、マサキがあんなにデキるコだったとは。彼も含め、シーズン前に加入した件の国代表、石田、西谷、そして大吾。開幕後に加入した陸、それから青木。みんながみんな、戦力になってるのがスゴいよなあ……。おかげで、竜はベンチだし、オイちゃんはファンサ要員だし。どこのUCLクラブだよ!?ユーヤは「ヘンなモン、食ったか？」ってくらいに覚醒しそうなってるし、コースケは本領発揮だし。アカン、このままだと、ゆ(以下略)

そうは言っても、盛岡にも危ない場面をたくさん作られてたからな。一点で済んでよかった。ウチも決定機を幾つか潰してたから、おあいこっちゃ、おあいこなんだけど。

とにかく、勝ち勝ち。週末までは盛岡戦の余韻に浸りたい。でもって、来週も余韻に浸りたい。(ぐん)

●今季から岐阜に復帰&加入ですすでにスタメン定着のカイケン&石田の古巣・岩手との対戦。石田の強みである「スペースがあれば行った行った」の爆裂高速攻め上がりは当然“お見通し”だったろう。実際、岩手は岐阜の攻撃時は3バックを速やかに5バックに。石田のスペース狙いに蓋をしてきた。でも、この試合の岐阜は「岩手がそうしてくる」ことを見越していたフシがある。編成を変えて、左2列目にアキト、右には左2列めで主戦だった荒木。これでSBがスペース狙いで突っ込むのではなく、両ウィングが将棋の『銀』のように押し込んでいくことに。さらに、ロングフィードが得意なカイケンがアメフトのクォーターバックのように後方から長いのを飛ばしていくので、岩手の5バックが整わない。さらに、ボランチの青木が守備めを負担してくれるので庄司にかかる負荷がかなり減少。さらにさらに、試合を経験するごとに連携が増していくユーヤとコースケ。とにかくコースケがやりやすそう。「ちゃんとした2トップなら俺は違わぜ」

と高らかに主張しているようだ。昨年まではFW登録が2人でも「1トップが2人」だったからね……。オウンゴールで1点を失ったけれど、なんか『勝つべくして勝った』としか形容できない試合だった。スタメンに替わる能力のある選手がサブにいますので、選手交代が「下位互換」にならない。これで、既報通りに元・韓国代表FWが加入してくるとなると……「FC岐阜は、いったいどうなってしまうのか！」(笑)。ワクワクが止まらなくなってしまう。(吉田 铸造)

## 【第7節】松本 1-2 岐阜

●第6節にして勝点で暫定首位に並んだ岐阜。アウェイ戦は再び上位対決。天気は快晴……かと思いきや、強風に煽られたり小雨がパラついたり。振り返ってみると試合内容を暗示していたのかも(苦笑)。この日の試合も、試合序盤から攻勢を掛ける岐阜。前半わずか3分、#8 荒木大吾にボールが渡ってフリーな状態でPA外から左足を振り抜くと、ゴール左隅に決まって先制点！これで開始10分以内の先制点が3試合連続、昨年までの得点力不足は一体何処へ(苦笑)。だが、その鋭い先制パンチが松本を目覚めさせてしまったか、その後は松本の時間帯に。特に、4日前に期限付き移籍してきた#50 ジョップ・セリンサリウのポストプレーが効いていた。また、現在のウチの攻撃起点である#5 石田峻真の上がりを塞ぐため、その右サイドで攻撃を仕掛けて守備に回らせる松本の策にハマってしまった感が。今回の右MFは#38 新垣貴之だったけど、#5 石田との連携が上手くいったとは、残念ながら言えない状況。前半12分に同点に追いつかれた際も、(岐阜の)右サイドから中央の#50 ジョップが潰れたセカンドボールをシュート、こぼれ球を決められてしまった。その後も松本は勝ち越しを狙って攻勢を強めるけれど、#1 GK 茂木秀のビッグセーブもあり、そのまま同点で前半を折り返す。さて後半は、前節と同様に左MFに#15 上野輝人を投入し、#8 荒木を右にと修正。この修正が効いて、前半ほど攻勢に出られなくなった松本だけ、岐阜にも決定機が生まれる流れは来ない。ただ、後半37分に松本が3枚替えをして#50 ジョップが下がったあたりからは、松本も息切れしてきたのか、ちょっとだけ流れが良かった。このまま引き分けか……と思いついた後半AT(48分)、カウンターでボールを持った#11 藤岡浩介が縦に仕掛けて相手DFの間を抜く低いクロス。これを#24 栗飯原尚平がしっかり決めて勝ち越し弾！いやー、現在J3得点ランク1位の#11 藤岡に、相手選手が全員釣られて#24 栗飯原がどフリーでした。まさかの劇的決勝ゴール、そして2-1での勝利。シュート数は、前半3本vs11本、通算でも6本vs16本のスタッツ。こういう試合を落とす記憶はあるんだけど、獲ったのっていつ以来？(苦笑)そして岐阜が松本にアウェイで勝利したのは11年前の2013年以来2回目だとか。まあカテゴリが違う時期が長かったけれど、久しぶりにアルウィンで黙らせるのは、やはり最高でした(笑)。それにしても松本さん、満席って訳でもないのにアウェイ席を昨年よりも狭くしたり、同点の際には僕らを煽ってくる選手がいたり、しっかりアウェイ感を堪能させて貰いました(苦笑)。そして大宮が1試合残しているとはいえ、単独首位……(感動)。だけど、ここで油断する訳にはいかない。他チームに対策を採られ苦しい試合が続くだろう。ここからが、本当に今季の岐阜が強いのか、試されるんだと思う。(ささたく)

●昨日は久しぶりのアルウィン。コロナ以前、2019にも行ってないから少なくとも6年以上は経っている。今回もDAZNの予定だったが、ひょんなことから4日前に参戦を決めて、いざ、来てみたら、待っていたのは最高の年度末だった……。アルウィンでの凱歌は11年ぶりか。新井大作戦以来かよ(苦笑)。アノ時と比べると、全然楽な気持ちで席に着いたんだけど、違った意味で、物凄くキツイ90分……、いや70分だった。

しかし、ホントによく耐えてくれた。それと、なんでかわからんけど、よく外してくれて助かった(笑)。シュート数は6-16。でも、スタッツを見るまでもなく、ほとんどの時間を守備に忙殺された。特に前半は、スペースを突かれ、デッカイ50番にボールを納められ、セカンドボールをことごとく拾われ、もう、這々の体でなんとかイブンのままハーフタイム。開始早々、向こうのミスから先制したけど、そこから、ずーと、向こうのターン。CKも雨霰のように降らされて、前半、同点にされた後のモギシュアのビッグ・セーブがなかったらズルズルだった。でも、こんなのを90分続けられるんなら、今の町田だってなんとか出来る。少なくとも、J3におらんワ……、いや、続けられたらごめんない、だ。そう思ってた後半も半ばくらいから失速。決勝ゴールも向こうのトラップミスからショートカウンター。左サイドで起点になったアイちゃんが逆サイドに流れて、どフリーで。そして、訪れた大歓喜。アルウィンでの凱歌はサイコーッだ！

コレで余裕を持って、長良川にアノ6番を迎えるコトが出来るな(爆笑)。いいかい？謝るなよ？ゼツタイ、謝らないでよ？公式での謝罪コメントは勿論、個人のSNSなんかで詫びたりするんじゃないゾ？せつかく、大ネタを提供してくれたんだ。長良川では分厚い歓声で迎えてあげる。盛り上げていこうぜ！お互いに。いや～、久々に出てきたな、こんな選手。え？負けたけど『敢闘賞』つてのを貰ったのか。ヨシ、今後は密かに『かんとーしょークン』と呼ばう(笑)。まあ、ボクなら10番を選ぶけどな>敢闘賞。(ぐん)

●前日は関東にいたので、試合当日の朝から『18きっぷ』利用で中央東線で松本に向かったのだけど、途中の沿線火災で1時間以上の運転見合わせが起き、甲府から特急利用を余儀なくされた。おかげで試合開始には間に合ったものの、4,000円近い追加出費(『青春18きっぷ』は普通・快速系にしか使えないので、新幹線や特急に乗る際には乗車券も買う必要がある)。「もうこれは勝ち点3を獲らないと気が済まん！」と勝手にイキリ立っていた(苦笑)。

しかし、シュート数16対6のスタッツから明らかのように、どう視たって「松本の試合」だった。FWジョップが岐阜DFに身体能力を活かした圧力をかけ、カイケンにボールがいくとさらに攻撃手2名がチャージをかけることでロング・フィードをさせない。もう一つの今季の岐阜の長所である右SB石田の「爆裂行った行った」には、彼の前、右2列めのガッキーを弱点とみてボール奪取点にして、後ろの石田を守備に専念させる。かくして、岐阜の攻撃は綺麗に手詰まりに。試合開始早々に松本守備陣が緩く入ったところを見逃さず荒木がグラウンダー・ミドルを叩き込んで先制するも、松本の山口に詰められて同点に(彼については後述)、あとは、右サイドは、ほぼ火だるま。ホントによく同点で折り返したものです……(苦笑)。

後半からアクトを左に入れて荒木を右に(岩手戦のスタメンと同じ構成)。これで右サイドの炎上は収まったけど、まだ試合は松本ペース……あれ？後半のなかばくらいからセカンドボールが拾えるようになって互角に。松本のサッカーが『売り切れた』のだ。それでもまだ互角に過ぎなかったけれど、ATに中盤のトラップミスを奪って前線3名のショート・カウンター。荒木→コースケ→最後はあいちゃん。よくぞ仕留めてくれました。DAZNで視ると、ゴールが決まった瞬間、上野監督は喜ぶ素振りもなく、大急ぎで守備固めの川上に交代出場を指示していた。「喜ぶのは勝ってからだ」と。実に頼もしい。

勝因は、ホントに「信じたこと」だろう。あれだけ攻撃を喰らっても、しぶとく耐え凌げばチャンスは来る、と。かくして、アルウィンでの勝利は11年ぶり2度めだとか。前回の勝利の際にはまだなかった「HYPER CHANT」を岐阜サポみんなで合唱。そして万歳四唱。これを『最高の週末』と言わずして、どうしろと。4,000円の追加出費は、この試合をフルに観るための必要経費だったと考えよう。そうだそうだ。

最後に。同点ゴールを決めた際に、『アウェー席』の前までわざわざ走ってきて松本のエンブレムを見せつけるという「メンタルの強靭さ」を示してくれた松本MF山口は、おそらくこの試合の観戦に訪れた岐阜サポミんなの心を「ワシ掴み」にしたと思う。長良川の松本戦では、手厚い、本当に手厚い『声援（比喩）』で歓迎して差し上げたい（笑）。（吉田铸造）

## 【第8節】相模原 1-1 岐阜

●今シーズン比較的好調な相模原が対戦相手。岐阜は試合通して、攻撃も守備もリズムが噛み合わない部分が多かったかな。それでも先制点の場面、生地のCKを田口が後ろにすらしてこぼれたボールを藤岡が押し込んだのは見事。

相模原は後半瀬沼を投入してきてから、ペースを掴んで、岐阜の失点シーンも彼を起点にしてからのショートカウンターでやられてしまった。

休む間もなく今日は富山戦、日曜は宮崎戦と連戦が続く。疲労もそろそろ溜まり始める頃とは思うが、チーム全員の力で乗り越えていてもらいたいな。（岐阜の誇り）

●昨季はチーム作りに全振りしていたという噂の相模原。昨季は18位だったが今季は暫定6位、ウチとは勝点差4と好位置にいる難敵。

さて、岐阜は右MFに今季リーグ戦初出場の#14 生地慶充をスタメン起用。この試合も序盤から攻勢を仕掛ける岐阜だけど、すぐに相模原に対応されてしまい、試合の流れを奪われる。右SB #5 石田峻真への対応、岐阜のDF陣にボール回しをさせないよう素早いプレス。そしてボールを奪うとシンプルに前線に送って攻撃。暫定とはいえ、やっぱり首位になると対策をきちんと練られてしまうなあ…と痛感しました。後半8分に#14 生地のCKを#17 田口裕也がヘディング、こぼれたボールを#11 藤岡浩介が押し込んで先制点！しかし、この後に相模原が2枚替えして再び攻勢に転じる。そして後半22分に鋭いカウンター攻撃で同点に追いつかれてしまう。守勢に回る岐阜は、後半38分に#40 川上竜を投入、5バックにして守備の安定を図る。直後に決定機を作られてしまうけど、#39 瀬沼優司が外してくれて助かった（苦笑）。その後は互いに決定機を作ることができずに1-1。暫定首位の座からは1節で陥落、まだまだ僕らは謙虚に強くならなくてはと思わせる試合内容でした。（ささたく）

●人生初の相模原ギオンス。帰りのバスが通常の倍以上の時間がかかって、予定していた電車に乗れなかったコトが一番印象に残ってるかな（苦笑）。

試合は……う～ん、なんて、言ったらいいのか。プリンスのゴール以外はぼやけ過ぎて、よくわかりませんでした。見辛くて。やっぱり、観るんならメインか、バクスタにしなきゃいけないですね。観るんならね。

チャンスはあったけど、呼吸が止まりそうになる場面も作られた後半。何というか、右サイドの渋滞感、拭いきれなかったよね？と。オイちゃんには、もっともっと、やってもらわないと。

しかし、観戦者数が1,630人か。鈴鹿でF1やってたからかな？（笑）（ぐん、）